

スウェーデンの理工系大学における留学支援体制

ストックホルム研究連絡センター

村上 道子

1.はじめに

日本では、グローバル化等に対応する人材力の強化のため、外国人留学生を14万人（2012年（平成24年））から2020年（平成32年）までに30万人に倍増させることを目指している。また、これと併せて日本人留学生を6万人（2010年（平成22年））から2020年（平成32年）までに12万人に倍増させることを目指している。

平成26年5月1日現在の外国人留学生数は184,155人で、平成25年と比較すると16,010人（9.5%）増加している。また、平成25年度中に協定等に基づく留学を開始した日本人学生の数は45,082人で、平成24年度と比較すると2,073人増加している。

留学生数の増加に向け、国レベル、大学レベルでの奨学金提供、ウェブサイトや冊子、留学イベントにおける情報発信、留学期間中のケア等による留学支援が行われている。

スウェーデンの理工系大学ではどのように留学支援が行われているのか、留学生数の動向と照らし合わせながら検討すべく、調査を行った。

2.スウェーデンの留学生受入れ数、派遣数の動向

2.1 受入れ学生

受入れ学生は、交換留学生と、交換留学生以外（フリームーバー）に分類される。それぞれの学生数について、年別、出身地別のデータを検証する。

(1) 新規受入れ学生数

2010/11年度から2014/15年度の間、の年度別新規受入れ留学生数は以下のとおりである。

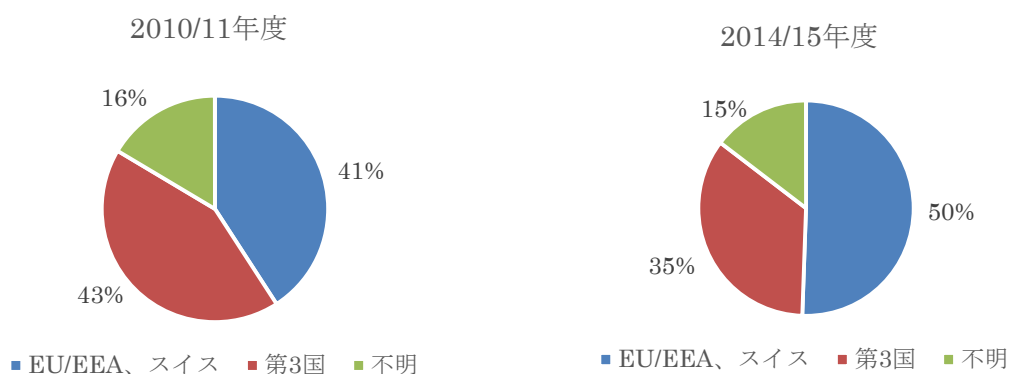
出身地	学生の分類	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2013/14 からの 変動率	2013/14 からの 変動数
EU/EEA、スイス	フリーメンバー	1,632	2,064	2,611	2,598	2,283	-12%	-315
	交換留学生	10,226	10,275	10,409	9,372	8,723	-7%	-649
	合計	11,858	12,339	13,020	11,970	11,006	-8%	-964
第3国 ¹	フリーメンバー	8,076	1,637	1,755	2,079	3,094	49%	1,015
	交換留学生	4,325	4,544	4,254	4,433	4,494	1%	61
	合計	12,401	6,181	6,009	6,512	7,588	17%	1,076
不明	フリーメンバー	4,773	2,112	2,435	2,795	3,179	14%	384
	交換留学生	1	0	0	3	0	-100%	-3
	合計	4,774	2,112	2,435	2,798	3,179	14%	381
合計	フリーメンバー	14,481	5,813	6,801	7,472	8,556	15%	1,084
	交換留学生	14,552	14,819	14,663	13,808	13,217	-4%	-591
	合計	29,033	20,632	21,464	21,280	21,773	2%	493

2014/15年度の新規受入れ学生は全体で21,773人であり、2013/14年度と比較すると493人の増加である。フリーメンバーは1,084人増加したが、同時に交換留学生が591人減少した。2014/15年度は新規受入れ学生のうち約61%が交換留学生であり、留学生数の半数以上を占めているが、前年度と比較すると減少している。新規受入れ交換留学生は2011/12年度以降減少傾向にあるが、それと同時に新規受入れフリーメンバーは増加傾向にある。

地域別に見ると、2014/15年度新規受入れ学生のうち、EU/EEA、スイス出身が50%、第3国出身が35%を占めるが、EU/EEA、スイス出身者は減少傾向にあり、第3国出身者は増加傾向にある。とりわけ、第3国出身のフリーメンバーの増加が著しい。

2011年の授業料導入は、受入れ学生数に影響をもたらした。2010/11年度の新規受入れ学生は29,033人であったのに対し、2011/12年度は20,632人と大幅に減少した。しかし、2012/13年度以降は増加傾向にある。

2010/11年度と2014/15年度新規受入れ学生の出身国を比較すると、以下のとおりとなる。



¹ EU/EEA、スイス以外の国を指す。

2010/11年度、EU/EEA、スイス出身の学生が41%を占めていた。2014/15年度、この割合は50%となった。これと同時に、第3国出身の学生の割合は、43%から35%に減少した。出身国が不明の学生は、16%から15%になった。

授業料導入は、主にアフリカとアジアの学生に影響をもたらした。これらの地域からの受入れ学生数について2010/11年度と2011/12年度を比較すると60%以上減少している。交換留学生の多い地域からの受入れ学生数には影響が少なかった。

しかし、先述のとおり、第3国出身のフリーメンバーは増加傾向にある。2013/14年度から2014/15年度では、1,015人増え、3,094人となった。

近年、交換留学生の受入れ数は減少傾向にある。しかし、10年前の2004/05年度と比較すれば、10,151人から13,217人に増加しており、30%の増加である。

男女比は、女性の方がやや多いが、出身国によってそのバランスは大きく異なる。

(2) 総受入れ学生数

新規受入れ学生だけでなく、すでに受入れを開始している学生も含め、総受入れ学生数について見てみる。

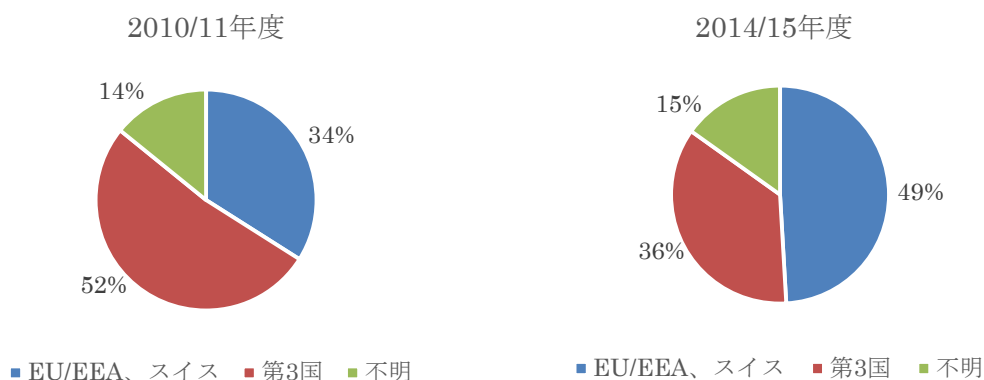
出身地	学生の分類	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2013/14 からの 変動率	2013/14 からの 変動数
EU/EEA、スイス	フリーメンバー	5,467	6,084	7,071	7,637	7,304	-4%	-333
	交換留学生	10,405	10,436	10,576	9,511	8,842	-7%	-669
	合計	15,872	16,520	17,647	17,148	16,146	-5%	-1,002
第3国	フリーメンバー	19,546	12,693	7,738	6,445	7,098	10%	653
	交換留学生	4,677	4,865	4,498	4,614	4,670	1%	56
	合計	24,223	17,558	12,236	11,059	11,768	6%	709
不明	フリーメンバー	6,612	4,063	4,071	4,400	4,975	13%	575
	交換留学生	1	0	0	3	0	-100%	-3
	合計	6,613	4,063	4,071	4,403	4,975	13%	572
合計	フリーメンバー	31,625	22,840	18,880	18,482	19,677	6%	1,195
	交換留学生	15,083	15,301	15,074	14,128	13,512	-4%	-616
	合計	46,708	38,141	33,954	32,610	33,189	2%	579

2014/15年度は、全体で33,189人の学生を受入れた。前年度と比較すると579人の増加である。33,189人の受入れ学生のうち、19,677人がフリーメンバーであり、13,512人が交換留学生であった。フリーメンバーは1,195人(6%)増加し、交換留学生は616人(4%)減少した。

授業料徴収を導入して以来、フリーメンバーの学生数および総受入れ学生数が増加したのは初めてのことである。2013/14年度までは、新規受入れ学生数が増加し続けていたにも関わらず、総受入れ学生数には影響を及ぼしていなかった。

受入れ学生のうち、多くが EU/EEA、スイス出身である。2014/15 年度は、全受入れ学生の半数以上である 16,146 人が、EU/EEA、スイス出身であった。しかし、その数は 2 年連続で減少している。第 3 国出身の学生は、授業料徴収の導入以降初めて増加した。

2010/11 年度と 2014/15 年度総受入れ学生の出身国をグラフで表すと以下のとおりとなる。



2010/11 年度、EU/EEA、スイス出身の学生が 34%を占めていた。2014/15 年度、この割合は 49%となった。これと同時に、第 3 国出身の学生の割合は、52%から 36%に減少した。出身国が不明の学生は、14%から 15%になった。

新規受入れ学生数の割合の変化とほぼ同じ結果であると言える。

2.2 派遣学生

2013/14 年度、総派遣学生が 2012/13 年度より約 600 人増加し、約 28,900 人となった。6 年連続しての増加である。総受入れ学生数と総派遣学生数の差が縮まり、総派遣学生が約 3,700 人少ないという状況になった。2003/04 年度と比較すると、派遣学生は約 4,500 人増加している。

派遣学生は通常 3 つのカテゴリー（フリーメンバー、交換留学生、語学留学生）に分類される。2013/14 年度は、フリーメンバー約 19,200 人（66%）、交換留学生約 6,900 人（24%）、語学留学生約 3,000 人（10%）であった。しかし、報告をせずに留学する学生もいるため、データに残っていない留学も想定される。したがって、実際の派遣学生数はこの調査結果以上であると考えられる。

2013/14 年度と 2012/13 年度と比較するとフリーメンバーは 3%増加、交換留学生はほぼ変動なし、語学留学生は 3%減少という結果になった。男女比は女性 59%、男性 41%で、学生人口全体と同じ割合である。交換留学生に限定すると、女性 57%、男性 43%となる。この差は、女性が多いプログラムに交換留学協定が少ないために生じたものであると推測される。

交換留学における派遣学生数の変動は以下のとおりである。

プログラム	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2013/14 からの 変動率	2013/14 からの 変動数
Nordplus ²	189	201	169	183	177	-3%	-6
EU-program ³	2,743	3,149	3,139	3,065	3,084	1%	19
協定プログラム	3,081	3,393	3,687	3,742	3,941	5%	199
合計	5,978	6,696	6,948	6,946	7,178	3%	232

2012/13 年度から交換留学生の数が 2 年連続で減少していたが、2014/15 年度は 3%増加した。

2013/14 年度に学部を卒業した 47,300 人のうち、約 14%が 6 年以内に留学を経験していた。経済、ビジネスの学生では 50%の学生が留学している。法律 37%、建築 36%が留学している。健康、社会、教育の分野では留学者数は多くなく、それらの分野においては留学が一般的ではないことが伺える。

3.スウェーデンの理工系大学における留学支援体制インタビュー結果

スウェーデンの理工系大学の留学事務担当者に、留学の現状と支援体制についてインタビューおよび質問票による調査を行った。

3.1 リンシェーピン大学

質問票

回答日：2015 年 9 月 15 日

協力者：Ms. Anna Andersson,
Coordinator, International Relations,
The Institute of Technology,
Dean's Office



左からリンシェーピン大学の Ms. Karlsson、
筆者、リンシェーピン大学の Ms. Mellberg

² Nordic Council of Ministers による北欧諸国およびバルト三国向けのプログラム。学部レベルおよび修士レベルの交換留学やネットワーク形成等への支援が行われている。

³ エラスムスプログラム等の留学プログラム。エラスムスプログラム以外にも、アメリカ、カナダ、日本、オーストラリア、ニュージーランドへの留学が可能となるプログラムが含まれている。

インタビュー

実施日：2015年10月26日

協力者：①Ms. Monica Mellberg,

International Coordinator, Study Counsellor,
The Institute of Technology, Dean's Office

②Ms. Åsa Karlsson,

International Exchange Coordinator,
The Institute of Technology, Dean's Office

(1) 大学概要

創立年：1970年

学生数：19,895名

教職員数：2,084名

(2) 事務体制

中央の International Office がある他、Faculty 内にも International Office を設置している。
各 International Office の構成人数は以下の通り。

中央の International Office	15名（うち3名留学生の受入れ業務に従事）
Institute of Technology	5名が交換留学を担当
Faculty of Arts and Sciences	2名交換留学担当（Faculty of Educational Sciences 兼任）
Faculty of Medicine	3名交換留学担当

(3) 受入れ学生の現状と支援

男女比：

2013/14年度1,082名の交換留学生中58%男性、42%女性

2014/15年度937名の交換留学生中57%男性、43%女性

（2013/14年度フリームーバーは812名だが、男女比は不明）

交換留学生の主な出身地：

ドイツ、フランス、スペイン、シンガポール、中国、チェコ、アメリカ、オーストリア、台湾、イタリア

奨学金：

Swedish Institute という公的機関の提供する修士課程入学者向けの奨学金がある。

リンシェーピング大学の提供する交換留学生向けの奨学金はない。エラスムプログラムで交換留学をする学生はプログラムからの奨学金を得ることができる。

留学生の新しい環境への適応を促す取り組み：

大学主催の歓迎プログラムの他、学生団体による活動が多く行われている。

(4) 派遣学生の現状と支援

留学時期：

通常、3～5年生⁴で留学するが、3年生での留学が最も多い。

留学期間：

1セメスターの留学をする学生が多い。留学者数は秋学期と春学期でほぼ同数。

男女比：

2013/14年度 588名の派遣学生中 54%男性、46%女性

主な留学先国：

ドイツ、フランス、スペイン、イギリス、シンガポール、アメリカ、韓国、中国、日本、オランダ

奨学金：

エラスムスプログラムで留学する場合は、プログラムからの奨学金を得ることができる。

Institute of Technology の学生がヨーロッパ以外の地域に留学する場合、リンシェーピン大学の奨学金を活用することができる。

交換留学生の選考：

選考方法は Faculty ごとに異なる。Institute of Technology では、成績、取得単位数、大学での活動状況によって学生を順位付けし、判断する。Faculty of Arts and Sciences では成績、取得単位数、希望理由書、語学能力、互換予定単位数によって判断する。面接は派遣先大学からの要望がない限りは行わない。

学生は最大 8 大学まで留学希望先を出すことができ、選考に落ちてしまった場合は次の志望先に変更することが可能である。

単位互換：

全学生が単位互換を行う。留学前に学習計画作成を支援し、帰国後の単位互換が可能になるようにしている。

留学希望者の相談：

相談専用のオフィスはないが、International Office やそれぞれの Faculty の担当に相談することができる。留学相談を専門的に行うアドバイザーはいない。

留学を妨げる要因：

もし単位互換に失敗した場合、時間とお金を無駄にしてしまう可能性があること。また、留学することを難しく考えてしまうこと。

派遣学生増加に向けた取り組み：

一番宣伝効果があるのは、学生から学生へ情報を伝えてもらうことである。

⁴ 1～3年生が学部レベル、4～5年生が修士レベル

(5) 留学プログラムの広報

International Office と Faculty が協力して大きな留学イベントを年に一度開催している。また、それぞれの学部ごとに学生に情報提供するイベントを開催する。各イベントでは、留学経験者が留学希望者に向けて話をする機会も設けられる。

3.2 シャルマーズ工科大学

質問票

回答日：2015年10月8日

協力者：Dr. Gustavo Perrusquía,
International Office

インタビュー

実施日：2015年10月16日

協力者：Ms. Alexandra Priatna,
International Coordinator,
International Office



左から筆者、シャルマーズ工科大学の Ms. Priatna、
ストックホルム研究連絡センターの阿久津センター長

(1) 大学概要

創立年：1829年

学生数：9,744名

教職員数：1,708名

(2) 事務体制

International Office は 18 名の職員で成り立っているが、専用の部屋は設けられていない。それぞれの職員は異なる Department に所属しており、月に一回ミーティングを行う形をとっている。

International Office の職員のうち、8名が留学関連業務を行っている。

(3) 受入れ学生の現状と支援

留学生数：

修士課程の学生のうち約 500 名が留学生であり、交換留学生数も約 500 名である。2011 年に留学生からの授業料徴収を開始した際減少したが、それ以降少しずつ増加の傾向にある。

留学生の出身地：

留学生のうち約半数がヨーロッパ出身者であり、その次に多いのがアジア出身者、アメリカ出身者である。

奨学金：

2015 年は政府からの奨学金が減少した。留学生数に影響を与えるので増えると良い。

留学生の新しい環境への適応を促す取り組み：

新入生向けに **Introduction Week** というヨーテボリでの生活や大学生活について紹介するための期間が用意されており、留学生もこれに参加する。学生団体による様々な活動も行われている。

受入れ学生数の増加に効果的な方法：

留学経験者である学生が留学希望者に情報を伝えること。

(4) 派遣学生の現状と支援

留学時期：

学部の最終学年または修士課程 1 年目で留学する。この時期に留学すると政府からの補助金がもらえる。

留学期間：

ヨーロッパ以外の国への交換留学であれば 1 年間、ヨーロッパへの交換留学であれば 1 セメスターが一般的である。

主な留学先国：

ヨーロッパではイギリス、フランス、スペイン、ドイツ、イタリア。ヨーロッパ以外ではアメリカ、オーストラリア、日本。英語が母国語の国と、全く異なる文化圏の国の人気が高い。交換留学の派遣、受入れのバランスは 3 年スパンで見ている。3 年でバランスが取れないときは、協定の見直しをすることもある。

奨学金：

政府からの奨学金についてウェブサイトで情報を提供している。

交換留学生の選考：

成績、語学能力等を基準に選考を行う。面接が必要な交換留学プログラムもある。選考に漏れてしまった学生には他の大学を勧めるなどの対応を行う。

単位互換：

交換留学の場合は単位互換を行うことを義務付けている。留学前に単位互換について許可を得ることになっている。

留学希望者の相談：

International Office の 8 人の留学担当者が相談に対応する。

留学を妨げる要因：

留学先国が英語を母国語としていないこと、留学先に学生に合った授業がないこと、留学先の安全面に対する不安、金銭面の問題、留学により卒業を遅らせる必要が出てくること、友人家族と離れたがらないこと等が要因として挙げられる。

スウェーデンの学生は早くに親元を離れ、場合によっては在学中に子供が産まれることもあり、留学が難しい状況になる学生もいる。また、成績上位者には政府から在学中 6 年間奨学金が出るが、これは就職後に返済する必要がある。奨学金返済のために留学を躊躇する学生もいる。

派遣学生増加に向けた取り組み：

国、都市、大学、プログラム等、留学先に関する情報を十分に提供すること。留学しても、単位数などの将来的な問題がないことを納得してもらうことが重要。しかし、一番効果があるのは学生から学生へ留学体験談を伝えてもらうことである。

(5) 留学プログラムの広報

年に一度、秋に留学フェアを開催する。全学生が対象。留学経験者、留学生の体験談が聞ける機会が設けられている。インターナショナルデーを年に一度、留学の申請期間の近くで開催し、ここでも、学生の体験談を聞くことができる。

3.3 スウェーデン王立工科大学（KTH）

質問票

回答日：2015年12月28日

協力者：Ms. Charlotte Almqvist,
Advisor Student Exchange,
International Relations Office

(1) 大学概要

創立年：1827年

学生数：15,002名

教職員数：2,219名

(2) 事務体制

International Relations Office は 22 名の職員で構成されており、うち 2 名が交換留学を担当している。

(3) 受入れ学生の現状と支援

留学生数：

交換留学生は毎年約 1,250 名。修士課程に在籍する授業料徴収対象の留学生数は約 360 名。

留学生の主な出身国：

交換留学生はドイツ、フランス、スペイン、シンガポール、アメリカ、オーストラリアの出身者が多く、修士課程に在籍する授業料徴収対象の留学生は中国、インド、東南アジア、ブラジルの出身者が多い。

女性留学生の割合：

約 27% で、スウェーデン人の女子学生の割合（約 3 割）と比べるとやや少ない。

奨学金：

KTH からの奨学金が用意されている。

留学生の新しい環境への適応を促す取り組み：

KTH Entre という学生窓口内の留学生サービスチームが、留学生が新しい環境に慣れるための支援を行っている。

(4) 派遣学生の現状と支援

留学時期：

Master of Science プログラムでは 4 年目または 5 年目に留学する人が多い。

留学期間：

1 セメスターまたは 2 セメスター。

男女比：

2014 年 男性約 58%。女性約 42%。

奨学金：

ヨーロッパ以外の国に留学する学生には、大学から渡航費の支援がある。ヨーロッパ内の留学の場合は EU から奨学金が出る。

交換留学生の選考：

申請は学生がオンラインシステムを利用して行う。オンラインシステムでは最大 5 つの留学希望先を入力することができる。選考では、学修状況を確認する他、面談が行われる。面談の際は、ディスカッションを行い、必要に応じて語学能力（英語以外）の確認を行う。GPA（Grade Point Average）の高い学生から優先的に決められる。

単位互換：

全員が行うことになっている。単位互換することが交換留学に参加する条件となっている。

留学希望者の相談：

各学部にアドバイザーがいる。アドバイザーの人数は、合計 10 人以上。外国の大学での生活などについてアドバイスする。

留学を妨げる要因：

KTH で勉強したいと考えている、学生をする傍らすでに仕事をしており職を失いたくない、恋人がいる、金銭面の問題等が要因として挙げられる。

留学者数増加のために：

情報提供が重要。情報提供に力を入れることで、少しずつ留学者数が増加している。

(5) 留学プログラムの広報

年に一度、KTH Global というイベントを開催する。協定校から担当者が参加する。また、留学生も参加し、母校について情報を提供する。

留学経験者が体験談を伝える機会も用意されている。

4.留学向け情報提供

インタビューを行った結果、スウェーデンの理工系大学の留学担当者は、情報を十分に得られる状況を作ることが留学生数増加に繋がるため、情報提供を重視していることが分かった。それぞれの大学のウェブサイトにおける情報提供の特徴を検証する。

4.1 リンシェーピン大学

(1) 受入れ学生向け

- ・受入れ学生のブログを閲覧することができる。
- ・留学準備について情報提供を行っている。（プログラム申請方法、住居、ビザ、滞在許可の手続き、アカデミックカレンダー、平均的な月々の費用）
- ・留学を開始してすぐに行うべきことに関するチェックリストを掲載している。
- ・オリエンテーション、ウェルカムフェアといったイベント情報を掲載している。
- ・**Study Information** として、スウェーデンの大学の雰囲気、どのような試験が行われるか、成績の付け方等の情報を掲載している。

(2) 派遣学生向け

- ・**Study Abroad** という留学情報をまとめたページがある。
- ・交換留学等のプログラム以外で留学する学生のために、留学準備のチェックリストを掲載している。
- ・役に立つ情報が掲載されている外部ウェブサイトを紹介している。
- ・障害を持つ学生向けの留学情報を掲載している。

4.2 シャルマーズ工科大学

(1) 受入れ学生向け

- ・**Student mobility** というプログラム、奨学金をまとめたページがある。
- ・交換留学等のプログラム以外で留学する学生のために、動画で申請手続きについて説明している。
- ・アカデミックカレンダー、大学の雰囲気、どのような試験が行われるか、平均的な月々の費用といった情報を掲載している。
- ・新入生向けイベントを紹介している。
- ・大学周辺の環境について動画と文章で説明している。
- ・住居について説明するとともに外部ウェブサイトを複数掲載している。

- ・学生ブログを閲覧することができる。

(2) 派遣学生向け

- ・プログラム、分野、国等の情報を入力することで、留学先を検索できるシステムがある。
- ・派遣留学関連の情報はポータルサイトを通じて得ることができる。（ログインの必要があるため閲覧不可）
- ・学生ブログを閲覧することができる。

4.3 スウェーデン王立工科大学（KTH）

(1) 受入れ学生向け

- ・Study abroad という留学情報をまとめたページがある。
- ・どのようにコースを選択すればよいか詳細に説明がされている。
- ・住居について説明するとともに外部ウェブサイトを複数掲載している。
- ・受入れ学生へのインタビュー記事が掲載されている。
- ・学生ブログを閲覧することができる。
- ・コンタクトフォームから特定の学生に直接質問することができる。
- ・大学周辺の環境について動画と文章で説明している。

(2) 派遣学生向け

- ・留学情報をまとめたページがある。
- ・留学に至るまでのステップが記載されている。
- ・レポート形式の留学体験談が閲覧できる。
- ・Instagram で留学中の学生が撮影した写真を閲覧することができる。

4.4 その他機関による情報提供

(1) 受入れ学生向け

Swedish Institute による“Study in Sweden”という受入れ学生向け留学情報をまとめたウェブサイトがある。

このウェブサイトで閲覧可能な情報は以下のとおりである。

- ・スウェーデンの高等教育システムの解説
- ・留学にかかる費用（授業料、生活費、健康保険、教材費等）
- ・プログラムへの申請方法
- ・ビザ、滞在許可
- ・各大学の情報（掲載大学は 38 大学）

- ・留学プログラム情報（プログラム数は1,000を超え、期間、プログラムレベル、分野、大学ごとの検索が可能）
- ・奨学金（Swedish Institute が提供するもの、大学が提供するもの、その他財団が提供するもの、受入れ学生の出身国が提供するもの）
- ・スウェーデンでの生活情報（住居、生活費、医療情報、アルバイト、税務署への登録、交通、生活インフラ）
- ・インターンシップ
- ・スウェーデン語の習得
- ・カレンダー（奨学金の応募締め切り、スウェーデン留学の情報が得られるイベントの開催日が表示される）
- ・スウェーデン留学をしている学生のブログ（留学生の目から見たスウェーデン生活について知ることができる、記事はテーマ分けされて掲載されている）

その他の特徴は以下のとおりである。

- ・項目をクリックすると、関連情報へのリンクも表示される仕組みになっている。
- ・英語、中国語、アラビア語で情報を得ることができる。
- ・Facebook ページ、Twitter アカウントがあり、最新情報を流している。

(2) 派遣学生向け

Swedish Council for Higher Education という政府機関による“studera.nu”という高等教育に関する情報を掲載しているウェブサイトがあり、そこで派遣留学に関する情報提供も行われている。

このウェブサイトで閲覧可能な情報は以下のとおりである。

- ・留学の仕組み（フリームーバー、交換留学）
- ・留学計画の立て方（複数のコースを比較すること、費用を計算すること、留学先のコースがスウェーデンではどのレベルにあたるのか事前に確認すること、Certificate of Eligibility を取得すること、語学テストを受けること、入試を受けること、申請書を用意すること）
- ・交換留学プログラム（6つ）
- ・留学後の手続き（スウェーデンの大学に戻る場合とスウェーデンで仕事をする場合）
- ・インターンシッププログラム（4つ）
- ・奨学金（スウェーデンが提供するもの、留学先国が提供するもの）
- ・住居
- ・健康保険、医療情報
- ・ビザ、滞在許可
- ・障害者向け留学情報
- ・留学先国の情報（60か国分）

その他の特徴は以下のとおりである。

- ・項目をクリックすると、関連情報へのリンクも表示される仕組みになっている。
- ・スウェーデン語、英語以外にも15か国語でウェブサイト掲載情報を見ることができる。

- ・掲載情報を音声で聞くことができる。

5.まとめ

スウェーデンの留学の現状として、受入れ学生についてはフリームーバーが増加傾向にあり、交換留学生在が減少傾向にあるが、全体的には増加傾向にあるということが挙げられる。

派遣留学生についても、全体的に増加傾向にあるということが挙げられる。

この背景には、受入れ、派遣とも充実した情報提供という支援が行われているということがありと感じられた。

質問票およびインタビューによる調査を行った理工系大学では、どの大学の担当者からも情報提供が留学生数増加に重要であるという意見を聞くことができた。十分な情報提供により、留学希望者が抱える不安を払拭することができるため、留学への後押しとなるようだ。とりわけ、留学経験者の学生から留学希望者の学生へと伝えられることが、最も効果的な情報提供手段であるとのことだった。

実際に各大学等のウェブサイトを見てみると、留学経験者のブログを閲覧することができたり、留学経験者と直接コンタクトをとれる仕組みが作られていたり、リアルタイムの情報が得やすくなるよう工夫がなされていた。経験談という情報にアクセスしやすくするために、留学イベントで直接聞く機会を提供するだけでなく、どこからでもアクセスできるウェブサイトを充実させることが重要であると感じた。

インタビューを行う中で、留学ということを難しく捉えてしまう学生がおり、留学を躊躇してしまうケースがあるという話を聞くことができたが、実際の学生の声を見聞きすることで、漠然とした不安を解消することができると思う。また、大学周辺の環境を動画にして掲載することは、実際に自分の目で見て確認できるので学生の不安解消に効果的であると考えられる。

情報提供以外に重要な点は、学生の不安を払拭できるシステムづくりにあると考えられる。今回調査を行った理工系大学では、交換留学の場合単位互換を全学生が行うシステムとしており、留学によって卒業が遅れるなどのロスが少なくなるよう工夫がされていた。システムづくりをし、それをどのように伝えるかが鍵となると言える。

6.謝辞

質問票およびインタビュー調査にご協力くださった各大学の皆様、報告書作成にご協力くださった日本学術振興会ストックホルム研究連絡センターの皆様、研修の機会を与えてくださった日本学術振興会、東京工業大学の皆様に、心より感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 今後の留学生政策について (2013年8月8日)
文部科学省 HP (2016年1月31日アクセス)
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1338568.htm
- [2] 留学生に関する調査
JASSO HP (2016年1月31日アクセス)
<http://www.jasso.go.jp/ryugaku/statistics/index.html>
- [3] Internationell mobilitet
Swedish Higher Education Authority HP (2016年1月31日アクセス)
<http://uka.se/statistik--uppfoljning/statistikdatabas-om-hogskolan/internationell-mobilitet.html>
- [4] Annual statistics on higher education in Sweden
Swedish Higher Education Authority HP (2016年1月31日アクセス)
<http://english.uka.se/statistics/annual-statistics-on-higher-education-in-sweden.html>
- [5] リンシェーピン大学 HP (2016年1月31日アクセス)
<http://www.liu.se/?l=en>
- [6] シャルマーズ工科大学 HP (2016年1月31日アクセス)
<http://www.chalmers.se/en/Pages/default.aspx>
- [7] スウェーデン王立工科大学 (KTH) HP (2016年1月31日アクセス)
<https://www.kth.se/en>
- [8] Study in Sweden HP (2016年1月31日アクセス)
<https://studyinsweden.se/>
- [9] studera.nu HP (2016年1月31日アクセス)
<http://studera.nu/startpage/study-abroad/good-to-know-about-studying-abroad/financing-your-overseas-studies/>